



インタビュー編

夏タイヤのまま雪道を走るのは危険。そんな常識を無視したドライバーが引き起こすクルマの立ち往生や事故のトラブルは後を絶たない。冬道での安心、安全を確保するために何をすべきか。業界トップが発する強いメッセージに今じっくりと耳を傾けたい。まどめ：石川大輔 写真：前田恵介

雪道を夏タイヤで走ると法令違反になる!?

降雪地域ではそろそろスタッドレスへの履き替え時期を迎えるが、非降雪地域では降雪予報が出るまで夏タイヤのままですごすというユーザーも少なくない。そればかりか雪が降り積もっているのにも関わらず夏タイヤで出発して、渋滞や事故を招くケースは後を絶たない。

そうした無責任な行動により、毎年のように発生しているのがクルマの立ち往生だ。2020年12月には関越自動車道で大規模な渋滞が発生。ドライバーが丸2日クルマにとじ込まれる事態に陥ったのも記憶に新しい。身動きが取れずクルマが雪で埋まってしまうと命の危険すらある。

また降雪地のみならず、都市圏でも突然の降雪や凍結による事故は数多く発生している。JA

& APARA 聞く冬タイヤを履く重要性



冬タイヤを履く重要性を訴求する啓発ポスター。高速道路のパーキングやタイヤ販売店などで見たことがあるひともし少ないはずだ。

じつは積雪や凍結道路で冬タイヤを装着しないで運転した場合、道路交通規則違反となり、反則金は普通車で6千円となる。

「違反であることをしっかり伝えてい

Fや警察、消防への出動要請は2倍以上、降雪状況によっては10倍に達するというデータもあるほ

るが、加えて記載されているのが法令違反の警告だ。

「日頃から洗車を心掛けるなど、冬道における安全、安心に繋がります」



自動車用品小売業協会 (APARA) 会長 **小林喜夫巳氏**

「残念ながら、少しぐらいの雪だつたらノーマルの夏タイヤでも大丈夫じゃないかと誤った認識を持たれている方が少なくありません。協会としては、まず夏タイヤは積雪路や凍結路での走行を想定したタイヤではない。危険ですよということを、しっかり啓発していく必要があると考えています。(JATMA・山本会長)」

日本自動車タイヤ協会 (JATMA) ではチラシやポスターを作成し、関係団体との連携をはかりながら、より多くのドライバーの目に触れるように広く啓発活動を行ってきた。降雪地域ならびに非降雪地域ともに冬タイヤの装着をうながす内容となつてい



日本自動車タイヤ協会 (JATMA)
会長 **山本 悟氏**



「初雪予報の1カ月前を目安に
早めの交換を意識していただければ
降雪時にも慌てずに済みます」

くことで冬タイヤの装着をユーザーにうながそうと、昨年は啓発動画を制作しました。これについてもYouTubeやTVerなどのウェブ媒体を活用しながら啓発活動をさらに拡大し、冬タイヤに履き替えることの重要性を周知徹底していくことが必要だと強く感じています (JATMA A・山本会長)。

ページもスマートフォンで見られるようにするなど、絶え間ない努力を続ける。やはり冬道での安全や安心を確保するためには、冬タイヤへの早めの交換が肝心ということだ。

しかし、都心部を中心とした非降雪地域では、降雪予報が出るとユーザーがタイヤ販売店やガソリンスタンドに殺到するといった光景もお馴染みとなっている。「最近では季節感が異常というのか、昔とは変わってきているので、冬



インパクトのある啓発動画も用意。こちらはJATMAのホームページなどにアップされているので一度チェックしてほしい。

スペシャル
対談

JATMA
業界団体ツートップに

「現代におけるクルマ社会はどんどん変化しています。例えば先進安全装備。クルマには沢山のセンサーやレーダーがついています。そうした装備をちゃんと機能させるためには、日頃からクルマに接することが重要だと思います。そこで協会として洗車の日を策定し、クルマをキレイにしましょうという啓発活動を続けてきました。クルマをキレイにすればボディにキズが付いてないか分かるし、センサーの汚れも落せま

タイヤへの交換タイミングをはかるのもなかなか難しいですね。数年前にすぐ早く積雪予報が出たことがあります。一斉にお客様が冬タイヤを出してと殺到し、対応しきれないような事態もありました。そういうことも想定しながら、しっかり季節感を見ていただくというか、日頃からクルマへの関心を持ってもらうことも大切だと思います (APARA・小林会長)。

「現代におけるクルマ社会はどんどん変化しています。例えば先進安全装備。クルマには沢山のセンサーやレーダーがついています。そうした装備をちゃんと機能させるためには、日頃からクルマに接することが重要だと思います。そこで協会として洗車の日を策定し、クルマをキレイにしましょうという啓発活動を続けてきました。クルマをキレイにすればボディにキズが付いてないか分かるし、センサーの汚れも落せま

す。タイヤの溝の減り具合もぜひ一緒に点検していただきたいですね。(APARA・小林会長)。

夏タイヤ、冬タイヤに限らず、残り溝が少なくなれば、せっかくなので先進安全装備も本来の性能を発揮できず、制動距離は伸びてしまふ。日頃の洗車や点検を習慣づけすれば、冬タイヤへの交換タイミングもはかりやすいし、摩耗の状態も見極めやすい。

「小林会長もおっしゃられている通り、やはり意識として早めに準備して、冬タイヤに交換していただくことが重要だと思います。いつ降雪があっても大丈夫という心構えですね。あくまで一例ですが、タイヤメーカーのホームページでは、初雪が降る1カ月前をひとつの目安として、冬タイヤへの履き替えを推奨しています。自分が住んでいるエリアではいつ頃に初雪が降るか確認いただき、初雪予報の1カ月前ぐらいを意識して冬タイヤに履き替えていただければ、いざ雪が降っても慌てることもありません。早めの交換が、冬道における安全、安心に繋がっていくと思います。(JATMA・山本会長)」